

Acts 28:2-31

(使徒28:2)「島の人々は私たちに非常に親切にしてくれた。おりから雨が降りだして寒かったので、彼らは火をたいて私たちみなをもてなしてくれた。」

ルカが島の人々を「未開の人々 (barbarous people)」と呼んでいるのには、ちょっと笑ってしまうかも知れません。(訳注: 日本語にはそのようなニュアンスは含まれていません。「島の人々」と訳されているだけです。) “未開の人 (barbarian)” ということばは、ギリシャ語を話さない人を説明するのに使われていたことばです。そこには、野蛮だと言う意味はありません。ここに、異教徒による親切と好意に満ちたもうひとつのできごとが書かれています。この小さな島に276人が上陸したのだということを思い出してください。この群衆の中の多くが刑を受けるためにローマに送られる途上にある犯罪者です。それでも、異教徒である人々のこのすばらしい同情と助けがここに書かれているのです。

ヨナ書の中に、これと同じようなできごとがあります。異教徒の水夫たちが、ヨナを助けようとする場面です。ヨナがそうするようにと彼らに言ったにも関わらず、彼らはヨナを船から放り出すようなことはしたくありませんでした。彼らは船を陸に戻そうとしましたが、できませんでした。ときによって、異教の人々のほうが、宗教的な人々よりもずっと親切です。

(使徒28:3)「パウロがひとかかえの柴をたばねて火にくべると、熱気のために、一匹のまむしがはい出して来て、彼の手に取りついた。」

マルコの福音書の最後に、次のような約束が書かれていることを思い出されるでしょう。

(マルコ16:17-18)「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。」

私は、これらのしるしは新約聖書が完成される前のこの時期だけに限られていたと信じます。その時期の信者たちには、福音のメッセージを証拠立てる、しるしとしての賜物が必要だったのです。

今日のあなたへのアドバイスは、わざわざガラガラヘビをつかまないように、ということです。私はテネシー州に何年も住んでいました。だれかがガラガラヘビを集会の間につかんで、噛まれて、このヘビの毒が本当に何の影響も与えなかったなどというケースは、ひとつも知りません。ほとんどの人たちは死にます。何とか生き残った人も、ほとんど死ぬところですよ。ヘビの毒がその人たちにとても大きな影響を与えます。

もうひとつのことを指摘しましょう。パウロは、わざわざこのまむしをつかんだわけではないということです。パウロは神さまを試していたのではありません。私は、これはパウロの(Ⅱコリント12:7)「・・・肉体に一つのとげ・・・」が目の問題であったというもうひとつの証拠だと考えます。(このことについては、ガラテヤ人への手紙のところで取り扱います。) 彼がいくらかの柴を拾ったとき、パウロにはその上にいたまむしが見えなかったのです。

もうひとつ、使徒パウロに関する興味深い側面情報に気づいていただきたいと思います。偉大な使徒パウロが、柴を集めたのです。この島の人々は彼らにとっても親切でした。彼らは、そこに上陸した、276人の見知らぬ人たちを受け入れたのです。この日は寒く、雨が降っていました。彼らは海から上がってきたこの人々が暖まれるように、大きな焚き火を焚きました。火が小さくなってきたとき、パウロは柴をひと束集めに行きました。このことは、パウロが怠惰な説教者だという考えを払拭するはずですよ。彼自身も、教会の重荷にならないように、天幕作りとしての職業を続けたと言っています。明らかに、パウロは仕事をするをいっていませんでした。

パウロが柴を火にくべたとき、まむしは自然と火から這い出して来ました。まむしはパウロを噛んだだけでなく、彼の手に取りつきました。

(使徒28:4)「島の人々は、この生き物がパウロの手から下がっているのを見て、『この人はきっと人殺しだ。海からはのがれたが、正義の女神はこの人を生かしてはおかないのだ』と互いに話し合った。」

「正義の女神はこの人を生かしてはおかないのだ。」

言い換えれば、彼らはパウロが大きな罪で有罪であり、正義の手が彼に届いたと感じたのでした。彼は海からはのがれたが、今確かにヘビの毒で死ぬに違いない、というわけです。とても正直に言って、私は彼らがそこに座って、パウロに何が起るか、見ていたと思います。彼らは、もういつでも彼の手と腕が腫れてきて、ぱたりと倒れて死ぬだろうと思っていました。彼らは自分の仲間たちに何が起こったかという悲しい経験から、何が起るかを知っていました。同じことがパウロに起こると思っていました。

この異教徒たちが正義の観念をもっていたと言うことに注目してください。彼らは、パウロは人殺しで、罰を受けて当然なのだと推測しました。今日同じような状況になったら、人々は犯罪者が罰を逃れられるように、海に逃がすことでしょう。このできごとは、ローマ帝国の隅々まで、正義という観念が行き渡っていたことを示しています。異教のローマは、世界にこのような貢献をしました。ローマは慈悲ではなく、正義によって知られていました。罪は赦されませんでした。もし法を犯したのなら、代価を支払わなくてはなりません。ローマの鉄のかかとの下で、世界は慈悲を求めて泣き叫んでいました。それが、人類が、神さまの慈悲と赦しを知るように、罪からの救い主として来られたキリストの来臨の準備でした。

(使徒28:5-6)「しかし、パウロは、その生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかった。島の人々は、彼が今にも、はれ上がって来るか、または、倒れて急死するだろうと待っていた。しかし、いくら待っても、彼に少しも変わった様子が見えないので、彼らは考えを変えて、『この人は神さまだ』と言いだした。」
マルコの福音書16:18の神さまの約束は、パウロの経験の中で成就しました。(マルコ16:18参照)

(マルコ16:18)「蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。」

彼はヘビの毒から何の害も受けませんでした。今日、人々がわざわざヘビをつかんでこの約束によって自分たちは守られている、と言うとき、彼らは神さまが意図されたことから、はるか遠くへ離れてしまっているのです。

島の人々が、パウロが何の害も受けないのを見たとき、彼らは、確かにこの人は犯罪者ではあり得ない、そのかわりに神さまだと言い出しました。この判断も、パウロが犯罪者であると言う判断と同じように間違っていたはいましたが、このことはパウロにこの島、マルタでのとても重要なコンタクトを与えてくれました。

(使徒28:7-8)「さて、その場所の近くに、島の首長でポプリオという人の領地があった。彼はそこに私たちを招待して、三日間手厚くもてなしてくれた。たまたまポプリオの父が、熱病と下痢とで床に着いていた。そこでパウロは、その人のもとに行き、祈ってから、彼の上に手を置いて直してやった。」
パウロは今、使徒としての賜物を用いています。彼は入って行って祈りました。見たところ、彼はこの人のために祈ったのではありませんでした。自分のために祈ったのです。つまり、神さまのみこころを見定めるために祈ったのです。この人はパウロによっていやされるべきでしょうか？彼はそのことを知るために祈りました。

(使徒28:9-10)「このことがあってから、島のほかの病人たちも来て、直してもらった。それで彼らは、私たちを非常に尊敬し、私たちが出帆するときには、私たちに必要な品々を用意してくれた。」
パウロはマルタで福音を宣べ伝えたのでしょうか。この場所では唯一パウロは説教をしなかったと信じている人たちがいます。ここは、聖霊が私たちにふつうの常識を使うように求めておられるところだと私は思います。もちろん彼は福音を宣べ伝えました。私たちは使徒の働きの終わりのほうに来ていて、できごとはとても簡単にぶっきらぼうに書かれています。ここにいたってルカは、私たちがパウロがどうするか分かっていることを期待しています。次のように書いたのはパウロであることを思い出してください。

(コリント2:2)「なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。」

使徒たちにとっていやしは、彼らが宣べ伝えている福音が神さまからのものであることの証しでした。パウロが福音を宣べ伝え、いやしはその結果であるということを認識することがとても大切です。いやしは、彼が宣

べ伝えていることが真理であることの証しでした。パウロがここでも、彼が行ったほかのすべての場所でも全く同じことをしたと考えるのが自然の推測であると私は思います。

旅は続く

(使徒28:11)「三か月後に、私たちは、この島で冬を過ごしていた、船首にデオスクロイの飾りのある、アレキサンドリヤの船で出帆した。」

(訳注:デオスクロイの飾りは、ギリシャ神話アルゴ船の冒険に志願してきた勇士の中の二人「カストルとポルックス」です。ギリシャやローマの文化の中にいた人にとっては、この飾りがまことに頼もしい航海の守り神として目に映ったことでしょう。www.shurifukuin.org/sekkyou/321 より)

パウロはマルタに3ヶ月滞在しましたから、ここに書かれている数節が、この島での彼のミニストリーの全部の話ではないことは明らかです。ですから私たちは、パウロが福音を確かに宣べ伝えたことを確信することができます。

彼らの船の飾りである「カスターとポラックス」はローマ神話の神々です。(訳注:カスターとポラックス:ギリシャ神話で、ゼウスとレダの産んだ双生児。兄弟愛の典型。)彼らにささげられた柱が今もローマ広場にあります。

(使徒28:12-13)「シラクサに寄港して、三日間とどまり、そこから回って、レギオンに着いた。一日たつと、南風が吹き始めたので、二日目にはポテオリに入港した。」

嵐はおさまりました。あの北から来る暴風雨のユークラロンは過ぎ去りました。今ふたたび、南風が吹いています。

(使徒28:14-15)「ここで、私たちは兄弟たちに会い、勧められるままに彼らのところに七日間滞在した。こうして、私たちはローマに到着した。私たちのことを聞いた兄弟たちは、ローマからアピオ・ポロとトレス・タベルネまで出迎えに来てくれた。パウロは彼らに会って、神に感謝し、勇気づけられた。」

パウロは今、アッピア街道にいます。ここでもまた、信者たちの励ましがどれほどパウロにとって大切だったかが分かります。

ローマでのパウロ

(使徒28:16)「私たちがローマに入ると、パウロは番兵付きで自分だけの家に住むことが許された。」

パウロは見たところ家に住む自由はありましたが、いつでも番兵に守られていました。事実、違う兵士たちが順番に番兵のつとめにあたりました。

(使徒28:17-20)「三日の後、パウロはユダヤ人のおもだった人たちを呼び集め、彼らが集まったときに、こう言った。『兄弟たち。私は、私の国民に対しても、先祖の慣習に対しても、何一つそむくことはしていないのに、エルサレムで囚人としてローマ人の手に渡されました。ローマ人は私を取り調べましたが、私を死刑にする理由が何もなかったのです。私を釈放しようと思ったのです。ところが、ユダヤ人たちが反対したため、私はやむなくカイザルに上訴しました。それは、私の同胞を訴えようとしたものではありません。このようなわけで、私は、あなたがたに会ってお話ししようと思い、お招きしました。私はイスラエルの望みのためにこの鎖につながれているのです。』」

パウロはいつものパターンに従って、まずユダヤ人たちに接触しています。彼は、なぜ自分がローマに連れてこられたかを彼らに説明します。

(使徒28:21-24)「すると、彼らはこう言った。『私たちは、あなたのことについて、ユダヤから何の知らせも受けておりません。また、当地に来た兄弟たちの中で、あなたについて悪いことを告げたり、話したりした者はおられません。私たちは、あなたが考えておられることを、直接あなたから聞くのがよいと思っています。この宗派については、至る所で非難があることを私たちは知っているからです。』そこで、彼らは日を定めて、さらに大ぜいでパウロの宿にやって来た。彼は朝から晩まで語り続けた。神の国のことをあかしし、また、モ

一セの律法と預言者たちの書によって、イエスのことについて彼らを説得しようとした。ある人々は彼の語る事を信じたが、ある人々は信じようとしなかった。」

ここで、パウロが囚人として持っていたある種の自由が見られます。見たところ、かなり大人数が彼の家に來ることができたようです。でも、そこにはいつでも彼を監視する番兵がいました。

ここでも、使徒パウロは自分の旧約聖書に関する背景を使って、ユダヤ人たちをイエスさまに関して説得しようとしています。いつものように、ふたつの応答がありました。ある人々は信じましたが、ある人々は信じようとしませんでした。

(使徒28:25-31)「こうして、彼らは、お互いの意見が一致せずに帰りかけたので、パウロは一言、次のように言った。『聖霊が預言者イザヤを通してあなたがたの父祖たちに語られたことは、まさにそのとおりでした。』この民のところに行つて、告げよ。あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、その目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟つて、立ち返り、わたしにいやされることのないためである。」ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らは、耳を傾けるでしょう。』こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて來る人たちをみな迎えて、大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」

使徒の働きは、地の果てにまで福音が届けられる動きの始まりを語っています。エデンの園で、人は神さまを疑い、それは不従順につながりました。神さまに立ち返る道は、信仰によります。(ローマ1:5)「…信仰の従順…」とパウロが言っているとおりです。そしてこの当時、ある人々は福音を信じ、ある人々は信じなかったことが分かります。

使徒の働きはパウロが

「大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた」

ことで閉じています。記録は締めくくられていません。聖霊は今日も働いておられるのです。私たちのこの時代でさえも、聖霊のみわざは終わってはいません。使徒の働きは、携挙、つまりキリストがご自分の人々のために來られることで終わります。教会の働きはまだ完結してはいないのです。物語は続いているのです。あなたや私が聖霊の力によって行つたことが、この記録に足されるのです。

BIBLIOGRAPHY

(Recommended for Further Study)

- Alexander, J. A. *The Acts of the Apostles*. Carlisle, Pennsylvania: The Banner of Truth Trust, 1875.
- Conybeare, W. J. and Howson, J. S. *The Life and Epistles of St. Paul*. Grand Rapids, Michigan: William B. Eerdmans Pub. Co., 1855. (A classic work.)
- Eims, Leroy. *Disciples in Action*. Wheaton, Illinois: Victor Books, 1981.
- Frank, Harry Thomas, editor. *Hammond's Atlas of the Bible Lands*. Wheaton, Illinois: Scripture Press Publications, 1977. (Inexpensive atlas with splendid maps.)
- Gaebelein, Arno C. *The Acts of the Apostles*. Neptune, New Jersey: Loizeaux Brothers, 1912. (A fine interpretation.)
- Heading, John. *Acts: A Study in New Testament Christianity*. Kansas City, Kansas: Walterick Publishers.
- Hiebert, D. Edmond. *Personalities Around Paul*. Chicago, Illinois: Moody Press, 1973. (Rich studies of people in contact with the apostle Paul.)
- Ironside, H. A. *Lectures on the Book of Acts*. Neptune, New Jersey: Loizeaux Brothers, 1943. (Especially good for young Christians.)
- Jensen, Irving L. *Acts: An Inductive Study*. Chicago, Illinois: Moody Press, 1968.
- Kelly, William. *An Exposition of the Acts of the Apostles*. Addison, Illinois: Bible Truth Publishers, 1890.
- Kent, Homer A., Jr. *Jerusalem to Rome: Studies in the Book of Acts*. Grand Rapids: Baker Book House, 1974. (A splendid work for individual or group study.)

- Morgan, G. Campbell. *The Acts of the Apostles*. Old Tappan, New Jersey: Fleming H. Revell Co., 1924.
- Rackham, R. B. *The Acts of the Apostles*. Grand Rapids, Michigan: Baker Book House, 1901. (A detailed study.)
- Robertson, A. T. *Epochs in the Life of Paul*. Grand Rapids, Michigan: Baker Book House, 1909.
- Ryrie, Charles D. *The Acts of the Apostles*. Chicago, Illinois: Moody Press, 1961. (A fine, inexpensive survey.)
- Scroggie, W. Graham. *The Acts of the Apostles*. Grand Rapids, Michigan: Zondervan Publishing House, n.d. (Splendid outlines.)
- Thomas, W. H. Griffith. *Outline Studies in the Acts of the Apostles*. Grand Rapids, Michigan: William B. Eerdmans Publishing Co., 1956.
- Vaughan, Curtis. *Acts*. Grand Rapids, Michigan: Zondervan Publishing House, 1974.
- Vos, Howard F. *Beginnings in Bible Archeology*. Chicago, Illinois: Moody Press, 1973.